INTERVIEW / 空港での活用を進める

空港の日常に、ロボットを迎えるために。



国土交通省　航空局　航空ネットワーク部　空港技術課
課長補佐

徳永　淳

KEY MESSAGE

誰もが難しいというコンテナ積付の自動化。それを何とか実現したくて、皆様と取り組んでいます。

Q1 グランドハンドリングを取り巻く現状と自動化の必要性

いま、グランドハンドリングの自動化が求められているのはなぜでしょうか。現場を取り巻く状況とともにお聞かせください。

さまざまな機会においてご説明しているのは、2030 年までに訪日外国人旅行者 6,000 万人を実現するという政府方針を達成するには、そのゲートウェイとなる空港機能の拡大が重要である一方で、人手不足が深刻化しており、その解決策の１つとして自動化が必要という点です。

それに加え、私が最近、自動化の取り組みが重要と感じているのは、今日的な気象環境の変化です。グランドハンドリング業務の多くが屋外での作業であり、真夏の猛暑や雷雨、真冬の降雪・極寒な環境下でも業務を継続していただくことで、航空輸送が確保されています。自動化によりそうした職場環境の改善が進むことで、結果として人手不足の解消にもつながると期待しているところです。

Q2 空港へのロボット導入における安全・運用上の課題

ロボットを空港の日常業務に取り入れるうえで、安全性や運用の面では、どのような課題を特に重視されていますか。

どの世界でも同じかとは思いますが、空港においても安全よりも優先するものはなく、空港内でロボットを導入するときには、お客様や空港で働く方々、航空機の運航や空港運用に対して安全が確保されているかをあらゆる観点から検証し、必要なリスク低減を図ったうえで導入する必要があります。

運用の面では、特に今回のコンテナ積付の自動化をめざす場所は非常に狭い環境であり、人や車両などの協働をいかに実現できるかという点が課題です。また、手荷物搬送システムやグランドハンドリング業務のオペレーションに対していかに有効的かつ効率的に組み込むことができるかが重要と考えています。



図１　今回の事業への思いを語られる様子

Q3 社会実装に向けたエアライン・空港・開発者・行政の連携

ロボットが実際の空港で活躍するために、エアライン・空港・開発者・行政は、どのように連携していくことが大切だとお考えですか。

関係者の連携は、ロボットの実装実現に最も重要なことですが、最も難しいことだと日々実感しています。今回の取り組みでは、新たなシステムの開発や実装を担う方々、積付作業を行っているエアラインなどの方々、手荷物搬送システムなどの関連システムメーカーや運用者の方々をはじめ、コンテストを支えて頂いている方々など様々な関係者がいらっしゃいます。当然、それぞれの立場とそれを踏まえたご意見があり、なかなかまとまらないことも少なくありません。そうした関係者の連携には、「同じ目標に向かって取り組んでいく」、「議論においては協調的に意思決定していく」という当たり前のことが重要と考えています。

航空局は、皆さんの連携を支え、実装実現を様々な観点からご支援する立場ですし、私もその役割を果たせていければと思っています。

PROFILE
プロフィール

国土交通省航空局航空ネットワーク部空港技術課　課長補佐

徳永　淳

採用後、空港や交通管制施設等に必要な機械施設などのインフラの企画、技術基準、整備等を担当。近年は空港制限区域内における自動運転車両導入に必要な取り組みや共通インフラの整備を担当。現職では、空港グランドハンドリング業務や空港管理業務などの空港分野における各業務の生産性向上を目的とした空港業務ＤＸ技術の開発や実装にかかる企画・調整を担当。

令和６年４月：航空局航空ネットワーク部空港技術課専門官
令和７年４月：東京航空局空港部機械課長
令和８年４月：現職